



第 139 号 (2009)

〒733-0032 広島市西区東観音 8-10

ワールド・フレンドシップ・センター

理事長：森下弘 館長：ケント&サラ・スウィツァー

TEL (082) 503-3191

FAX (082) 503-3179

E-Mail: worldfriendshipcenter@gmail.com

URL: <http://www.wfchiroshima.net/>

数々心に浮かぶこと

ケント・スウィツァー

行く手に何が待ち受けているのかと心配と不安に圧倒されて、まるで時差ボケもやの真ただ中に到着したように思う。何を教えるのか、言うべきことは、外食の注文は、言っただけいけない事は何か等々、分かつらうはずもない。沢山の初めての名前を正しく発音できるだろうか、覚えられるだろうか、来日前に学習した日本語を覚えているだろうか、何か読めるものがあるだろうか？期待されていることが出来ないときは、あるいは病気やけがの時はどうなる？サラの4H ティーン キャラバンプログラムの時のホストファミリー、秋田県の須田宅を訪れ、滞在したのは31年も前のことだ、うまく再会を果たせるだろうか。

着任初日から目に見えること見えないこと我々の旅路は猛烈で、時は止り凍結したかにみえて、やがて突如として異様なスピードで加速していくといったことも稀ではなかった— あの一カ月は何処へいったのだろうか？何の日だ？雨はいったい降り止むのか？今朝はゲストの朝食何人だ？今日はリサイクルプラのゴミの日だ、むつみ園訪問の日だと覚えていたか？無数のゲスト



がEメールし、電話し、WFCにやって来てチェックインし宿泊した。会話し、体験や意見をシェアし、そして我々みんなそうであるように彼らも旅を続けていった。大抵はエネルギーや感情の起伏のあいまいな中でだが— 笑ったり泣いたり、自分たちがここでやっていることはいったい何なのかと、時には疑問のわくこともあった。

(写真：送別会で下谷秀樹さんに謝辞を述べる知鶴子さん)

日々のルーティーンタスク、長いミーティングの数々、過密スケジュール、修繕、新旧プロジェクトやプログラム等々に圧倒されそうな事もよくあったが、また別の時にはそんな“異世界”でなく、自分たちにとってはごく“当然”で“先が見通せる”状況への心細さがつり、“いったい自分達の人生、なにやっているのだ？”との疑問に是非とも答えが欲しいと思った。

我々はみんな旅路の途上にあることを思い、その一部分を皆さん一人一人と同道できたことは感謝に堪えない。あらゆる人生は変化しつづめるものなのだから“ライフチェンジング”人生を変えるほどのという表現は全面的に適切とは言えない― 我々が被爆者やバーバラを見る必要があるのは、力を尽くしたプランや夢の向こうに、他の何がどう待ち受けているかを理解する為であり、我々に強く求められているのは、しっかりとよく見て、未経験かもしれない数本の道を進んでいく事である。



(写真：送別会にお花を届けてくれた隣のつばさ君)

人間が互いに持つ愛は、地上の全兵器よりも力強く普遍的な力である。我々の心や魂には言葉では説明しようのないような変化が生まれた。生徒、ボランティア、会員、スタッフ、“WFC 家族”の皆さんからは圧倒されるほどの寛大さを頂き涙を禁じえない。我々を人間らしくしているものに、限りない喜びと心底からの悲しみがあるが、それは我々がまた引き続き未知へと出発しようとする旅路でもある。数々の思いを残して去ろうとしているが、ここでシェアし、学んだことのすべてを持ち帰る― 生活し、共に働き、学び、笑いそして泣き、日本の、広島、ワールドフレンドシップセンターで愛を分かち合った我々の人生のその部分を。

イマジン

ケント・スワイツァー

故ジョンレノン作の「イマジン」はここ日本で最も人気があり今なお多くの人々に聞かれている歌のひとつだ。歌詞の中にWFCにもあてはまるテーマがある-地球上の全ての人々が平和な暮らしを望めるといふビジョンに向かって努力している一方で、国境、歴史上の紛争、どの宗教がベストかをめぐっての分裂や争いがある世界の向こうにも目を向けなければならない。

バーバラの考えにはメッセージが織りこまれている。食欲になったり飢えたりする必要はないと信じて、私たちもまた才能や持っているものを分かちあい、全ての人々がこの世界を分かち合っていると想像すべきだ、というメッセージが。

想像してごらん。ワールドフレンドシップセンターに教育者、アーティスト、作家、インターン、生徒、ウェブデザイナー、書道家、ミュージシャンやその他の人が集い、世界がもっと親しくなるために、教え、学び、才能を分かち合っているのを。想像してごらん。バーバラが勧めた、友好的な人と人とのつながりを広めることとなる、アジアのほかの国々とのパートナーシップや世代を超えた交流を。想像してごらん。大学で学ぶ若者たちとのわくわくするような意義深い平和教育を。それは、紛争ではなく協力が、核兵器力ではなくソフトパワーが、力ではなく友情が、暴力ではなくボランティアが大切だと理解する世界を築くだろう。



想像してごらん - それぞれが独自性と個性を持つワールドフレンドシップセンターが世界のあちこちにある - スタッフや理想を自由にオープンに分かち合いながら、ボランティアも旅行者もつながっている相互に織り込まれたタペストリーを。想像してごらん。バーバラが彼女の的確な決断と個人の力で私たちの世界を大きく変えることができるのなら、私たちが力を合わせれば何が達成できるのかを。ただ、想像してごらん。

WFCのボランティアたちの協力で完成したヒロシマワールドシップセンターのヴィラスウィーツの二階「バーバラの部屋」 - 有意義な学習と催し物のための新しいスペースで、早朝の日の光とやさしいデルタのそよ風を受けながら執筆。

(写真：WFC 理事長であり書道家の森下先生)

2009年5月—2011年5月の館長

ロン&バーブ・サイニィのご紹介



WFCの新しい館長二人にたいまつを渡すという伝統は、オハイオ州ティップ市（デイトン近郊）出身のロン&バーブ・サイニィご夫妻を五月中旬に迎えることで引き継がれて行きます。ロン&バーブは早期退職し、当分はブレザレン ボランティア サービス（BVS）のボランティアとして働くという選択をし、WFCに来る前にも二つのアサインメントをこなして来ました。

(写真：新館長ロン&バーブ・サイニィ
2009年5月から2011年5月まで)

彼らはウエストバージニア州のアンダーソン ホスピタリティーハウス（AHH）で13ヶ月のボランティアをし、引き続きバージニア州のキャンプ ブレザレン ウッド リトリート センターで6ヶ月のプロジェクトに従事しました。彼らはまたバージニア州シェナンドーとペンシルバニア州南部にまたがる地域でお年寄りの方々にBVSへの奉仕を勧める活動もしました。



バーブとロンの経験はWFC館長の様々な役割にとってもよく合致しています。バーブは数学の教師でしたし、起草の能力、マーケティングやエンジニアリングの分野の経験もあります。バーブはまた映画、読書、編み物、更には初めての人々に会ったり見知らぬ土地について学ぶ事等に関心を持っています。

(写真：ロン&バーブ・サイニィ、サラ、ケント、スタッフ尚美、山下夫妻)

ロンは電気配線技術者であり、その技術を実践して教える責任者としていくつかの公共施設で 35 年間働きました。BVS のトレーニングと一緒に受けていて、サラはロンと同じ

食事チームとなり、ロンが台所で食事の準備を完全にやり遂げたことを思い出しています。彼の関心事は年を経るごとに変わってはいますが、今は新しい仕事の挑戦を受けることを楽しみ、読書、ウォーキング、古い映画鑑賞なども楽しんでいます。

ロンとバーブは五人の子供を持つ混合家族で、合衆国のアリゾナからカリフォルニアを経てオハイオ、最近ではウエストバージニアとバージニアに住み次は日本の広島です。

2009 年 5 月 11 日に到着してすぐに WFC でのオリエンテーションを始める折に、彼らは WFC の伝統としての温かい歓迎や心からの感謝を間違いなく受けることになるでしょう。これは、彼らが広島に住み、教えたり、奉仕をしたり世界中の人々と知り合ったりしながら“国際理解の架け橋を構築する”というユニークな試みの連続した 44 年目を記録することになります。



(写真：山下夫妻と朝香さんが新館長を迎える。)

ウilmington 大学—WFC 夏期インターンシップ

アビー・プラット・ハリントン



アビー・プラット・ハリントンがウilmington 大学から初めて WFC 夏期研修生として 5 月 13 日に WFC にやって来ます。ディレクターのロン&バーブ・サイニアー夫妻の着任と同じ週です。アビーは 3 年生で主専攻は国際学で副専攻として歴史と宗教哲学を学んでいます。彼女の趣味は読書、旅行、様々な文を学ぶ事です。

このインターン制度は、WFCとPRC（ピースリソースセンター）とでバーバラの遺産を保存し、彼女の功績を再発見して、WFCとウイルミントン大学との連携を強化しコミュニケーションを高めるために企画されました。WFCとPRCとのより緊密な協力によって、次の世代—ディレクター、ボランティア、インターン、指導者、平和交換プログラムを含む—のための共同プログラムが重要な役割を果たすものと期待しています。

アビィが特に興味を持っているのは、WFCの被爆者のインタビューのビデオ、バーバラ・レイノルズを知っている人々、62年と64年に彼女と平和巡礼した人たち、それにバーバラの盟友でWFCの初代理事長である原田東岷氏（1912～1999）の思い出なので、インターンシップのプロジェクトに適しています。多くの書簡や写真（WFCや個人の収集物）があるので それらをスキャンしてPRCのライブラリーにアップロードし、WFCのウェブサイトにも接続して保存します。彼女のWFCでのインターン・コーディネーターとして 車地かほり、山根美智子、ロン&バーブ・サイニィー、PRCのシャーロット・バック諸氏が担当します。アビィの翻訳つきのインタビューはYouTubeに接続し彼女の研修成果が世界中で見ることができ、多くの人々が利用できるようになります。

アビィはひろくWFC関係者に会ったり、授業に参加したり、8月6日の式典その他、広島で多くの体験をする事でしょうし、2008年と2009年のWFCと修道大学のインターンとも連絡しあうでしょう。アビィは暖かく迎えられ、WFCに滞在中の学習や貢献を支えてもらえる事でしょう。あたらしく完成したヴィラスイートに住むことになります。壁が塗り替えられ、新しい畳のピースガーデンを見下ろす快適なガーデンビューという、WFCのボランティアがみんなで準備をした部屋です。

フューチャーガイドグループ

池田 美穂



私たちフューチャーガイドグループは、文字通り将来のピースガイドを目指し練習に励んでいます。サラさんが立ち上げ、ずっと面倒を見て下さいました。第一回ミーティングの日、九名のメンバーが集まり発会を記念してお茶で乾杯をしたのが、ちょうど一年前の事です。

それ以後、月一回平和公園での練習を行ってきました。サラさんは必ず一緒に公園を歩き私たちのガイドを聞いて下さいました。暗記はO

K・・・ところがいざ皆の前で話し始めると頭の中が真っ白になる事もしばしばです。でもサラさんは必ず、「大丈夫、素晴しかった。どうもありがとう。」と誉めて下さいました。私たちの努力を心底誉めて下さるのです。（写真：送別会で送辞を述べる美穂さん）

また、実地練習だけでなく、レギュラーガイドの方々のお誘いで栗原貞子文庫・旧日銀なども訪れ学習しました。そして、実際にガイドを見学させていただきながら、一步一步目標達成に向かって頑張っています。

初めてソロガイドをするという日の前の晩、私はほとんど眠れず心臓もバクバクでしたが、何とか終了した事を報告すると、サラさんとケントさんは満面の笑顔で喜んで下さいました。それ以後少しずつですが歩を進めることが出来ました。心から感謝いたします。

ピースガイドは一期一会。この地を訪れて下さった方々にお礼の意とたくさんの真心を込めて、ゲストの皆さんとの貴重な時間の共有にしたいです。わずか一時間だけど、一粒でも平和の心を分かち合うことができれば、とても素敵なことだと思います。サラさんがその機会を私たちに与えて下さいました。どうもありがとうございました。

サラさん、ケントさん、私たちはあと少しでお別れしなくてはなりません。とても寂しいですが、お二人の優しく、明るく、そしてパワフルな心は決して忘れません。サラさんとのガイド練習の事も、カメラを向けてくださるケントさんの温かい笑顔も…お二人には言葉では言い尽くせないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。是非またいつかお会いできる日が来ることを願っております。その時には、私たちフューチャーガイドグループは、レギュラーガイドの一員としてどんどん活躍しておりますよ、きっと！！
——ケントさん、サラさん、本当にありがとうございました。どうぞいつまでもお元気で。



(写真：新メンバーが加わったピースパークガイドミーティング)

4度目の韓国 PAX を迎えて

田口 知鶴子

色とりどりの草花や木々の芽が美しい4月半ばに、韓国から4度目の平和使節を迎えることができました。当初は、緊張や言い足りなさがあったか、どこかぎこちなく見えた交流会が大分和らいで来たように思います。昨年、韓国を訪問し、韓国の学校では、植民地時代に日本が韓国に対して施した事実を徹底して子供たちに教育している事が分かりました。日本の子供たちは、全くと言える程、先の大戦の負の部分について学習していません。2国間の歴史認識が大きく食い違っていて、これでは、“近くて遠い国”でしかありえません。直接、顔を合わせ、違いを学び、正しく歴史を理解し合うことで、二度と同じ失敗を繰り返さない固い友情の絆を結ぶ事ができます。次の世代にこのゆがんだ関係を引きずらないために、特に、未来を背負う若者が、共に学習し共に平和を築く努力を積み重ねる事が望まれます。今回の PAX で、相互理解がますます深まり、友情の架け橋が強固なものになるよう、心から願っています。



(写真：森下先生と Kyong Jung の挨拶交換)



(写真：知鶴子さんと Yoon Seo の微笑み交換)



写真：韓国 PAX メンバー：後列（左から右）Kyong Jung, William Loewen, Kwang Kyu, Jung Ki, In Hee, Yoon Seo(コーディネーター), Seong Kyul, Seong Guk. 前列(左から右)Eun Hae(グレース), Joo Young と Jung Hyuk.



WFCの理事の山根美智子と田口知鶴子が韓国PAXグループを連れて長崎訪問
長崎から友納靖史牧師、小野亜耶さん、吉田睦子さん、西脇八重子さん、山川剛さん
関口良雄さん、高原弘子さん